

	<p>日本プライマリ・ケア連合学会 中国ブロック支部</p>		<p>発行人:田妻 進 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 広島大学病院 総合内科・総合診療科 Tel&amp;Fax:081-82-257-5461</p>
---	------------------------------------	--	---

### 【第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会について】

会期：2020年5月29日（金）～31日（日）

会場：広島国際会議場・リーガロイヤルホテル広島

大会長：田妻 進（広島大学病院 総合内科・総合診療科／JA尾道総合病院 病院長）

テーマ：プライマリ・ケアと総合診療医学 ～学際的充実と伝承～

<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2020/index.html>

### 事前参加登録期間（予定）

登録開始日：2019年12月9日（月）正午

登録締切日：【早期】2020年3月9日（月）

【通常】2020年4月6日（月）

【直前】2020年5月22日（金）正午

### 【m-HANDS-FDF 2019 第2回の報告書】

中国ブロックでの指導医養成講習会の報告

松坂内科医院 松坂英樹

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

### 【m-HANDS-FDF】

(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

JPCA-MLなどで募集して今年度は中国地方の指導医6名が全5回のコースに参加されています。6名はそれぞれ3人ずつのチームを作り、模擬ティーチングなど協同して行ってまいります。以下に全体の概要と実際参加された指導医からの報告の一部を掲載しますのでご一読ください。2020年度も同じような枠組みを予定しています、ご興味のある方はご相談下さい。

---

#### <目的>

中国ブロックの指導医養成

#### <対象>

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

### Core Competence：Adult Educator(成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる  
学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる

## 第2回 鳥取大学医学部にて開催 2019. 10. 26-27

### 1日目

#### ・模擬ティーチング①

「虫垂炎の確定診断に近づく身体診察ができる」ことを一般目標として、初めての模擬ティーチングでした。課題は技術領域での教育でしたが、知識領域や態度領域のアプローチを併せて統合していくことでより、技術の学びが深まることを学びました。診察の練習の場合は、男女が混ざることがあり、安全面の配慮が重要であることや、技術分野の場合は、適応、限界、害についてまで触れると、より実践的な学びになるということも学びました。

#### ・模擬ティーチング②

模擬ティーチングのために、事前にメンバーで数回ライントークを用い協議し、実行計画書を作成しました。学習者のニーズ等をメンバーと考えながら目標達成のための実行計画書を作る試みは初めてで、わからない事も多かったが楽しみながらできたと思います。本番の流れを自分の中で抑えれておらず、予定とは違った流れになってしまい全体の流れをもっとイメージしとくべきだったと反省しました。

#### ・岡田唯男先生アワー①

医学教育における態度教育についてのセッションでした。態度の評価はどうするのか？

「電車で高齢者に席を譲る」という行動は評価する事が可能だが、「電車で席を譲る事が大事と信じる」態度は評価できるのか？「思いと思いやり」は異なるんじゃないかという例えを用いての導入から深い世界に入り込み、態度とプロフェッショナリズム教育の関係性をシナリオを用いてフェローや指導医陣でディスカッションを行いました。プロフェッショナリズムは態度も技術も知識も必要な領域で、様々な観点がある中、そこを評価するなら、道徳基盤、行動基盤、専門職アイデンティティ形成の3つの観点で分類するとしっくりくるのではないかという岡田先生のパールも頂き一段と学びが深まったセッションでした。

#### ・岡田唯男先生アワー②

優秀な家庭医を養成するのに必要なたった一つの事は「大半の健康問題に出会える研修環境を作る」こと。プログラム開始して20年を迎える亀田ファミリークリニックが培ってきた仕組み/employmentabilityには感服するばかりでした。また、意識していないと診療領域の幅はあつという間に狭くなる・中頻度の健康問題がきた時に逃げない姿勢が大切であるという、ジェネラリストの生涯学習の肝には、身が引き締まる思いでした。

### 2日目

#### ・指導のビデオレビュー

指導者と学習者の関係性がまずはできている必要があり、学習者のタイプによって教えたりパートナーとして関わったり変える必要があると感じた。また指導者だからといって、無理をせず、わからないことを認めることも重要である。患者さんをマネジメントしようと学習者がしているがうまくいかない時は、知識や価値観の問題がないかなど、分析の視点で学習者と関わることも時に必要である。

#### ・Difficult teaching Encounter

DTEは”学習者の問題””指導者の問題””組み合わせの問題””環境の問題”に分類され、それぞれに応じて評価や対策が異なることを学んだ。ワークでは各チームごとに実例を用いて検討した。学習者の問題と決めつける以

前に他の要因を検討することが重要であり、さらに多くの視点が考えることで本質的な問題が浮き彫りになる可能性があると思われた。

### ・リーダーシップとマネジメント

リーダーシップとマネジメントは、目標達成をする為に両方大事な視点である。マネジメントは「仕事の監督」であり、リーダーシップは「与えられた状況下でビジョンや目標達成の為に自発的フォロワーの獲得」である。リーダーシップの定義は「職場やチームの目標達成の為に、他メンバーに及ぼす影響力」であり、それは「権限・役職」に関わらずに発揮でき、「学習可能」であり、「全員発揮」した方が成果につながると学んだ。「他人が見えないものに気づき、そこに向けて歩みだそうと決意して、行動しようとしている人がリーダー」という言葉を受けて、「物事を自分事として捉え、自分に何かできることは無いか、周囲にいい影響を与えることができないかと思い、実践している人」なら誰でもリーダーシップを発揮していると思った。

### ・タイムマネジメント

誰にとっても1日24時間、いずれは天寿を全うするという前提の中、時間自体をコントロールする事は不可能で、コントロールすべきものは、自身のタスクの優先順位や自身の衝動、自身のモチベーション、周囲の環境であると学んだ。タスクを重要度、緊急度で捉えて、いかに第2領域を増やすか、その為に10の◎テクニックを学んだ。

(今後の予定)

第3回 in 宇部 11月30日(土) - 12月1日(日)

第4回 in 岡山 1月18日(土) - 1月19日(日)

第5回 in 広島 3月1日(日)

見学も可能ですので興味がありましたら、ぜひご連絡ください。

質問等ありましたら、hdk@matsuzaka@gmail.com までお問い合わせください。

集合写真など



### 【広島県北西部地域における広域ウェブカンファレンスの取り組み状況】

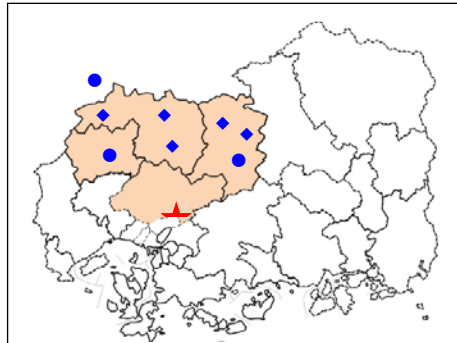
広島市立安佐市民病院 総合診療科 (広島県北西部地域医療連携センター)

〔目的〕

芸北地域が若手の医師・メディカルスタッフにとってさらに魅力的な場となるべく、広島県北西部の広域の医療

機関間でウェブを通して、指導医の参加のもと若手医師を中心とした症例発表、専門医によるレクチャーを行うことで知識を深め、若手・中堅医師・メディカルスタッフが安心して勤務継続が可能となるシステムを構築する。

### 芸州北部ウェブカンファレンス [I 令和元年度 実施状況]



#### 開催日時：

##### 1. 毎週水曜日

第1水曜日 : 19:00～19:50 芸州総診グランドカンファレンス (※)

第2,3水曜日 : 16:30～17:00

第4水曜日 : 16:30～17:00 医師・看護師・MSW 多職種合同カンファレンス

##### 2. 毎週火曜日 8:00～ 抄読会

##### 3. 毎週月曜日 17:00～17:30 腹部超音波ウェブカンファレンス

##### 4. 第4水曜日 7:30～ (月1回) 藝州北部画像読影カンファレンス

参加施設：安佐市民病院, 安芸太田病院, 佐々部診療所, 津田医院, 雄鹿原診療所, 公立  
邑智病院, 安佐地区近隣医療機関 (第4水曜日)

参加職種：医師 (指導医, 専攻医, 初期臨床研修医), 臨床検査技師, 看護師, MSW

## 「日本プライマリ・ケア連合学会 山口県支部」活動報告

山口県では、2012年、日本プライマリ・ケア連合学会 (以下、PC連合学会) の認定医・指導医を取得し、県内の総合医育成プログラムを充実させることを目的に、「プロジェクトG」が発足しました。2年間のプロジェクトの結果、県内の多くの医療機関に学会指導医が揃い、プロジェクトの目的が達成されました。2015年4月、プロジェクトGを引き継ぐ形で、県内のプログラム責任者、山口大学、学会代議員等で世話人を構成し、定款も作成し、日本PC連合学会 山口県支部 (任意団体) が発足しました。現在では、PC連合学会だけでなく、新専門医制度にエントリーした専攻医にも対応した取り組みを始めています。

### 【日本プライマリ・ケア連合学会山口県支部の概要】

- 1) 会員数 (山口県) : 178名
- 2) 指導医数 (山口県) : 84名
- 3) 専門医数 (山口県) : 12名
- 4) 認定医数 (山口県) : 115名
- 5) 専攻医数 (山口県) : 7名

6) メーリングリスト登録者数 : 107 名

【2017年4月～2019年12月の主な活動】 (単位取得申請したもの)

■2017年7月2日

病院救急外来で遭遇頻度の高い症例を学ぶコース (宇部市)

参加者 49名・単位取得者 8名

■2017年9月10日

眼表面異物、鼻出血、熱傷、足関節捻挫、シーネ固定など全科当直に対応できるシミュレーションコース (宇部市)

参加者 36名・単位取得者 15名

■2018年1月21日

ウィメンズヘルス (宇部市)

参加者 29名・単位取得者 21名

■2018年9月1日

総合診療オープンカンファレンス (下関市)

参加者 14名・単位取得者 14名 ※参加者数の報告がなかったため参加者数は不明です

■2019年7月6日

診療スキルアップセミナー (下関市)

参加者 28名・単位取得者 5名

■2019年8月17-18日

E BMセミナー (宇部市)

参加者 39名・単位取得者 17日 18名、18日 14名)

■2019年9月1日

先輩に学べ!!キャリアサーフィン術<総合診療編> (宇部市)

参加者 21名・単位取得者 5名

□2020年1月12-13日

D r. ブランチのケースカンファレンス (宇部市) 【予定】

【世話人】五十音順 (敬称略)

上田 宏隆 (山口赤十字病院)

黒川 典枝 (山口大学医学部附属病院) 顧問

齊藤 裕之 (山口大学医学部附属病院) 副支部長

坂田 勇司 (宇部協立病院) 監事

下川 純希 (興産中央病院)

白木 照夫 (岩国市医療センター)

原田 唯成 (いしいケア・クリニック) 監事

原田 昌範 (山口県立総合医療センター) 支部長

三浦 俊郎 (徳山中央病院) 副支部長

山下 智省 (下関医療センター)

吉富 崇浩 (豊田中央病院)

※山口県支部のメーリングリストに登録を希望される方は、事務局 (山口県立総合医療センター内)

[hekichi.shien@ymghp.jp](mailto:hekichi.shien@ymghp.jp) (担当: 黒木真由美) までご連絡ください。

文責：山口県支部長 原田昌範

## 「第2回中国ブロック支部専攻医交流会」

「中国ブロックで専攻医世代が交流をもつ機会を増やしたい」という要望から、2018年に初めて開催した第1回中国ブロック支部専攻医交流会。前回の事後アンケートでも継続開催を期待する声が多く、この度第2回の交流会の開催に至りました。昨年は台風が本州に上陸する前日の開催でしたが、今年は穏やかな天候に恵まれ、全国の八百万の神が出雲へ集まる神在月の11月9日に、中国支部の専攻医も出雲へ集まりました。

### 企画概要

【日時】2019年11月9日17時～

【場所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階ギャラクシー

### 【内容】

16:00-16:20 : アイスブレイク

16:20-18:30 : ポートフォリオ研鑽会

19:00-21:00 : 懇親会

ポートフォリオ研鑽会では、専攻医の「もやもや症例」をもとに、2グループに分かれてポートフォリオカンファレンスを行いました。各グループで議論したのちに、全体で議論中に来てきた家庭医療のエッセンスをシェアしました。

### 【講師陣】

高橋賢史医師（出雲家庭医療学センター/出雲市民病院）

藤原和成医師（出雲家庭医療学センター/大曲診療所）

藤原悠子医師（出雲家庭医療学センター/大曲診療所）

佐藤誠医師（島根県浜田市役所 医療専門監）

木島庸貴医師（島根大学医学部附属病院 総合医療学講座）

玉野井徹彦医師（山口大学総合診療部/生協小野田診療所）

当日は12名の専攻医が各県から参加し、交流を深めました。事後アンケートでは参加者全員がポートフォリオ企画に満足しており、有意義な時間となったようです。一方で、中国ブロック専攻医全てに連絡が行き届いていたわけではなく、今後の広報をどのようにするかが次の課題になりました。

多くの先生方にご指導ならびにご支援いただき開催することができました。今後も継続開催し、専攻医同士の輪を深めていければと考えております。



### 企画代表

羽田野貴裕（岡山家庭医療学センター 専攻医 2年目）

下川純希（山口大学総合診療プログラム 専攻医 3年目）

平岩千尋（医療法人紫苑会 藤井病院）